



「読書」という魔法

副校長 小松 露子

木々の葉の色が変わり、秋を感じる頃となりました。

先日の学校公開ではたくさんの方にご参観いただき、ありがとうございます。6年生の体育大会の練習など1学期とは違う学級の様子をご覧いただけたのではないかと思います。

さて、2年生が生活科見学で「魔法の文学館」に行ってきました。「魔女の宅急便」で有名な角野栄子さんの江戸川区角野栄子児童文学館「魔法の文学館」が江戸川区内のなぎさ公園に建設されたものです。

2年生の感想です。

○アッチに好きな料理は何かと聞かれました。アッチが作ったカレーライスやハンバーグを食べてみたいです。

○入った瞬間、真っ赤で本がたくさんあって驚きました。

○しかけがたくさんあり、本当の魔法みたいだと思いました。

私は子供の頃、角野栄子さんが書かれた「ハンバーグをつくろうよ」の本が大好きで、よく読んでいました。実際に真似してハンバーグを作ったこともあります。

角野栄子さんの作品に魅かれ読んでいた私にとって、この江戸川区に「魔法の文学館」ができたことはとても嬉しいことです。

江戸川区の教育で重点としているものに「読書科」があります。読書を通して「主体的に読む子ども 問い続ける子ども」を育成することを目指しています。

知らない世界を味わったり、学習や体験の事前や事後に読んで学びを深めたり、分からないことを調べたりすることで自ら学ぶ楽しさや知る喜びを味わい、更なる探究心や真理を求める態度が培われます。人生を豊かにするためには読書活動が必然であると言えます。

「魔法の文学館」のコンセプトは「子供たち自身が心を動かして、面白さを見付け、感じて、そこから自分の世界を発見して、創造力豊かな心を育めるような施設」とのことです。

本を読むことを楽しいと感じたり、役に立ったと思えたりするような読書活動を今後も続けていきます。